

開講科目名／Course	文化人類学入門	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 2 学期／Second	
開講区分／semester offered	2 学期／Second	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	2	
主担当教員／Main Instructor	足立 恵理	
担当教員名／Instructor	足立 恵理	
必修・選択 ／compulsory subject	選択	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	文化人類学は様々な文化の比較を通して人間理解に迫るとともに、当たり前のように使われる文化の概念や枠組み、異文化理解の対象や方法を問い直す学問でもある。 この授業では、看護の現場で患者の多様な背景に目を向けられるよう、文化人類学に加えて医療人類学の視点を学び、医療の現場や歴史を文化的視点から捉えてみる。演習では医療現場における多文化共生の問題を扱い、学んだ視点や方法論を応用し、問題解決や改善について具体的・実践的に検討する。	
到達目標	1. 自他の複雑で多様な文化的背景を捉えなおす視点を獲得する 2. 学んだ視点や方法論を使い、多文化共生医療の在り方を具体的に計画、実施、評価改善する	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観	
授業計画	01. 異なる文化の捉え方1ー近代～現代における異文化接触の課題 02. 異なる文化の捉え方2ー異文化接触を乗り越える思考的試み 03. 文化と医療1 ー医療化・脱医療化とその課題 04. 文化と医療2 ー身体観、病気観、死生観の多様性 05. 文化と医療3 ー医療システムの多様性と特徴 06. 【演習】多文化間協働の可能性を探る1ー言葉の壁を低くする方法やツール 07. 【演習】多文化間協働の可能性を探る2ー半構造的インタビューの手法いろいろ 08. 【演習】多文化間協働の可能性を探る3ー半構造的インタビューの活用練習	
その他の授業の工夫	学んだ視点を応用する力をつけるために、演習やグループワークを適宜取り入れる。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について、配布資料を読んで予習する。「次回までに」と指示があった内容について、自分なりに調査しまとめておく（7h）。 事後学修：講義で扱った視点について、配布資料等を活用して復習する。演習で扱った手法の活用・応用方法を考え、使い方を練習する（22h）。	
評価方法と評価割合	平常点（講義内容を自分の課題として捉える姿勢、グループワークや演習への貢献度）：50% レポート：50%	
テキスト	授業中にプリントを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		